

## 1. 漢字指導改善研究がめざすもの

## 1. 目標

◎すべての子どもたちが無理なく漢字を習得していくための合理的な指導法を研究開発する。

## 2. 研究の仮説

◎現行の学年配当漢字のみを表記する形から、上学年の漢字もルビ付き表記にする。

- ・そのことで読みの難易度は変わらない。むしろ、より文章が読みやすくなるのではないか。
- ・上学年の漢字も低学年から目に触れさせていくことで漢字の「読み」「形」「意味」が自然と学べていくのではないか。

◎「漢字の読み」を優先させる。

- ・「読むこと」は「書くこと」に比べて負荷が少ない。どの子も無理なく取り組めるのではないか。
- ・「読むこと」を優先させることにより、漢字の形や意味理解が進み、読み書き同時進行より、書いて覚える練習の負荷も軽減されるのではないか。
- ・漢字を読む力が育つことによって、文章を読む力・情報収集力が育つのではないか。

## 2. 実証研究の進め方

## (1)方法

「漢字音読名人」を使って、上記の仮説の有効性を検証する。

④	③	②	①	6	④	③	②	①	6
葉	酒	湯	苦		葉	酒	湯	苦	
もみじが赤く紅葉する。	あま酒は子どもでも飲めます。	酒屋さんでお酒を買う。	ポットの湯でお茶を入れる。	【確かめてみよう】 合格	もみじが赤く紅葉する。	あま酒は子どもでも飲めます。	酒屋さんでお酒を買う。	ポットの湯でお茶を入れる。	【読んでみよう】
草の葉にバツが止まっている。 葉が茶色くかき落葉する。	飲酒運転は禁止です。	熱湯がかかって大やけどする。	温泉のお湯につかる。		草の葉にバツが止まっている。 葉が茶色くかき落葉する。	飲酒運転は禁止です。	熱湯がかかって大やけどする。	温泉のお湯につかる。	
			暑い薬を飲む。					暑い薬を飲む。	
			苦勞して、やっと宿題ができた。					苦勞して、やっと宿題ができた。	
			マラソンはとても苦しい。					マラソンはとても苦しい。	

(3年生の「漢字音読名人」の例)

## (2)「漢字音読名人」の使い方

## ■「読んでみよう」欄

- ・漢字1字に付き、音読み・訓読みの3例文をルビ付きで表示している。例文中、当該学年までの漢字は太字で示している。
- ・このページを音読し、読めるようになった漢字のルビは塗りつぶしていく。全部読めるようになったら「確かめてみよう」のページでチェックする。

■「確かめてみよう」欄

- ・上学年の漢字のルビは表記し、当該学年までの漢字のルビは付けていない。
- ・「確かめてみよう」欄の例文を正しく読めたら、次のページの問題に進む。

(3)実施期間

平成28年度2学期、9～12月

朝自習や授業時間の一コマ、あるいは宿題等で継続的に取り組む。

3. 実証研究協力校

- 玉緒小学校2年1組（14名）
- 八日市南小学校2年（73名）
- 八日市西小学校4年（44名）
- 湖東第三小学校3年（45名）
- 能登川西小学校3年（38名） 4年（28名）
- 能登川北小学校4年（15名）

4. 各校の取組状況

漢字音読名人の活用時間帯とその方法

学校名	学年	活用時間帯	活用方法
玉緒小	2年	・毎日、5校時最初の5分間 ・休み時間・帰りの会	・合格欄を三分割し、友だち3人にOKしてもらったら先生のところにチャレンジする。合格したらシール。
八日市南小	2年	・国語の学習時間 ・朝スキルタイム	・担任が聞いて評価
八日市西小	4年	・休み時間	・1週間ごとに範囲を決めて、取り組ませる。 ※1学期のみの取組
湖東第三小	3年	・宿題と朝自習	・宿題で覚えてくるようにして、朝自習で確認する。
能登川西小	3年	・朝自習	
	4年	・国語の時間の3分	・昼休み時間に担任のところへ来て評価
能登川北小	4年	朝のドリルタイム((火) ・(木)2回)15分 国語入り授業の最初 や最後に 宿題でも	・担任が聞いて評価

## 5. 児童アンケート結果とその分析

9月～10月末までの2ヶ月間取り組んだ感想を次の3点について尋ねた。

- ①「漢字音読名人」の練習は難しかったか。
- ②「漢字音読名人」の練習をすることで、漢字に対する意識は変わったか。
- ③「漢字音読名人」の練習をすることで力がついたと思えることがあるか。あるとしたらどんなことか。

小学校 年 組

「めざせ！漢字音読名人」をやってみた感想を聞かせてください。  
 次のことについて、あてはまるところの( )に○をつけてください。

(1)「漢字音読名人」を使った漢字練習は難しいですか？

ア( ) 漢字音読名人の練習は難しい。

イ( ) 漢字音読名人の練習はかんたんだ。

ウ( ) どちらとも言えない。

《その思う理由》

□

(2)「漢字音読名人」を使った漢字練習をやる前とくらべて、漢字に対する気持ちは変わりましたか？

ア( ) 前より漢字が好きになった。

イ( ) 前より漢字が嫌いになった。

ウ( ) とくに変わっていない。

□

《その思う理由》

□

(3)「漢字音読名人」の練習をするようになって、前より良くなったなあと思うことはありますか？次の中からあてはまるものに○をつけてください。(いくつでも)

ア( ) 前より教科書を読むのがじょうずにできるようになった。

イ( ) 前より本を読むのが好きになった。

ウ( ) 習っていない漢字があってもあまり気にしなくなった。

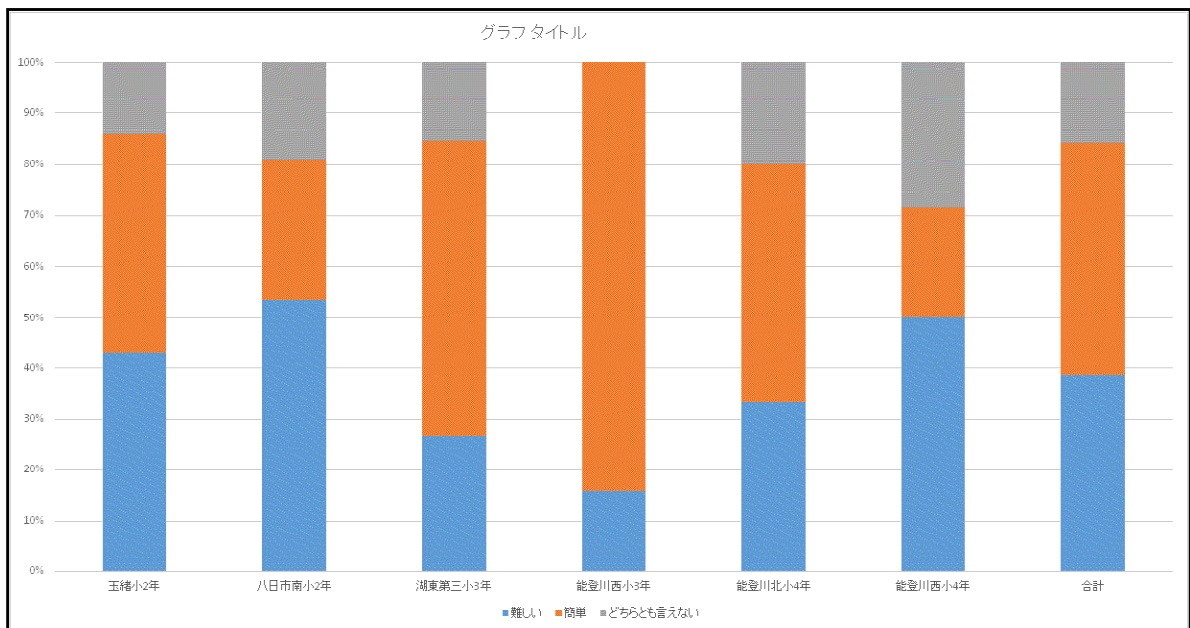
エ( ) 漢字の読み方を覚えたら、書く練習も簡単になってきた。

オ( ) 絵に良くなったと思うことはない。

カ( ) その他(ア～オ以外にあれば下の欄に書いてください。)

□

(1)「漢字音読名人」の練習は難しかったか。



	難しい	簡単	どちらとも 言えない
玉緒小2年	6	6	2
八日市南小2年	39	20	14
湖東第三小3年	12	26	7
八日市西小3年	6	32	0
能登川北小4年	5	7	3
能登川西小4年	14	6	8
合計	82	97	34

・「難しい」と思う子と「簡単」という子が相半ばしている。

・低学年で「難しい」と感じる子の割合が多い。

■「難しい」と思う理由

- ・知らないかん字があってわからないから。
- ・いろいろな漢字をならうと漢字がふえるから。覚えることが難しいから。
- ・漢字がいっぱいであってまよってしまうから
- ・漢字がきらいだから。あんまり好きではないから。
- ・漢字はまだなれてないから。ならっていないかん字があるから。上の学年のかんじがあるから
- ・12問やるのがむずかしい。
- ・漢字が小さくて読みにくいときがある。はやくいえない。
- ・漢字の音訓読みがわかりにくい。
- ・めんどくさい。

■「簡単だ」と思う理由

- ・読むだけだから。音読はむずかしくないから、
- ・文が短い。読むりょうがすくない。すぐにおわる。
- ・毎日10回ずつ練習しているから。何回も読んでいたら自然に言えてくるから。
- ・習っていない漢字でもすぐになれるから。かん字をすぐおぼえられる。
- ・もともと漢字がとくいだから。読むのが好きだから。

■「どちらとも言えない」と思う理由

- ・むずかしいのもあるしかんたんなのもある。
- ・ときどきならっていない漢字がある。

----- [担任の評価] -----

- ・読むだけなのでハードルが低くて取り組みやすい。 (八日市南小 北川)
- ・漢字を書くのがいやな子、漢字テストでほとんど点が取れない子が「これならできる」と取り組んでくれたことがよかった。自分自身も習っていない漢字もふりがな付きで書くようになり、子どもたちもそれを自然なことと受け止めている。 (八日市西小 谷口)
- ・本当に苦手なLD児は、見るのもいやで投げ捨ててしまった。また、単調な取組のため、やる気の続かない子はぼーっと立っているだけという姿もみられた。 (玉緒小 尾崎T)
- ・チェックプリント1回目が10点台の児童は、2回目も20点台にとどまり、取組の姿勢も消極的だった。 (能登川北小 西川T)

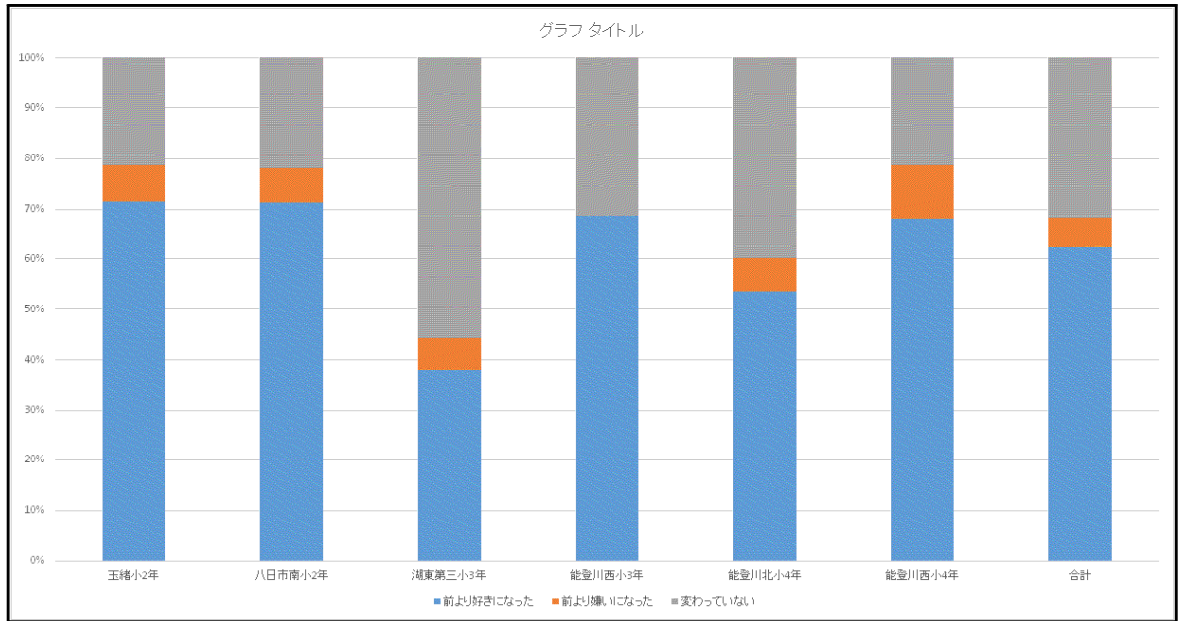
【考察】

- 「漢字音読名人」の練習は一定レベルにある子にとってはクリアできるレベルの負荷であり、適度な負荷がチャレンジする意欲を高めているとも言える。

(②の自由記述欄参照)

- 漢字について強い苦手意識のある児童にとっては、「難しい漢字がいっぱいある」という印象が先行し、「漢字音読名人」の取組そのものを拒否してしまう傾向が見られる。

(2)「漢字音読名人」の練習をすることで、漢字に対する意識は変わったか。



	前より好きになった	前より嫌いになった	変わっていない
玉緒小2年	10	1	3
八日市南小2年	52	5	16
湖東第三小3年	17	3	25
能登川西小3年	26	0	12
能登川北小4年	8	1	6
能登川西小4年	19	3	6
合計	132	13	68

- ・「前より好きになった」と答える子が全体では60%を超える。
- ・「前より嫌いになった」と答える子はわずかである。

■ 「前より好きになった」理由

- ・前は漢字をぜんぜん読めなかったけど読めるようになった。自信がついたから。
- ・よめるようになってうれしい
- ・前は読めないかん字もおおかったけど、読めるようになってきたから。
- ・ふりがながついていいるから漢字音読がすきになった。
- ・ひらがなより好きだからかな。
- ・漢字をたくさん覚えられるから。いっぱいならいたいから。
- ・書くのと読むのはちがう。
- ・漢字音読名人のプリントがすらすら読めるようになったから。
- ・いっぱいできた。「おんどくめいじん」をすすめたから。
- ・とてもたのしかった。どんどん楽しくなっていくから。
- ・おとなになったきぶんがして好き。
- ・かん字音読名人をしたら、すごくまい日ならいたくなってすごくへんかしました。
- ・おもしろいよみがながいっぱいできてきたからすき。
- ・漢字がどんどんなれてきたから。いろいろ漢字を見て勉強したから。練習したから。
- ・「かんじおんどく名人」まえはきらいだったのに、よむとすきになった。
- ・ならっていないよみかたもよめるようになったから
- ・だんだんむずかしくなってきたから。むずかしいけどすきになれたから。
- ・1学きはとってもきらいだったけど、2学きになって、むずかしいかんじがすきになった。
- ・かんじがじょうずになりたいから。みんなに負けたくなくてがんばったから。
- ・漢字をつかえば文章もみじかくなる。

- ・前はひらがなで書いた方がかんたんだからひらがなでかいてたけど、音読名人をやってから、かん字でかくようになったから。

■「前より嫌いになった」理由

- ・かん字のムーミンノートも2つれんしゅうがおおくなって、すこしむずかしくなったから
- ・おぼえるのがきらい
- ・1年のときはかんたんだったけど、2年からむずかしくなったから。
- ・前のほうがかんたんだから。
- ・前は好きだったけど漢字音読名人をやったらちょっときらいになった。
- ・べんきょうがきらいだから

■「特に変わっていない」理由

[漢字は苦手という気持ちが変わらない]

- ・おぼえたいけど自分の心がまけてしまう。めんどくさい
- ・すぐにまちがえたりする。れんしゅうしてるけどそんなにおぼえてない。
- ・むずかしいから わからない
- ・音読がきらい
- ・前からにがて。漢字が大きらいだから
- ・きらいなじばっかりだった。

[漢字は得意という気持ちが変わらない]

- ・今のところ読めない漢字はない。かんたんだから
- ・まえも漢字が好きだったから
- ・さいしょにやったらふつうだから。

----- [担任の評価] -----

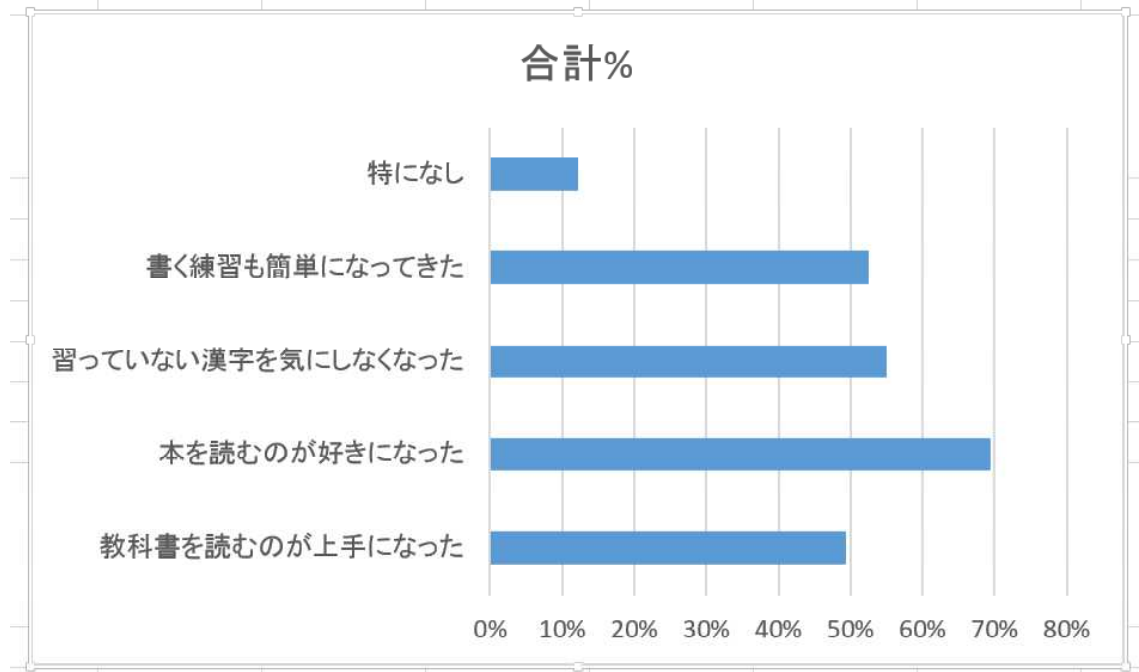
- ・子どもたちは知らない字を早く習うことに喜びを感じている。  
覚えることが苦手な子が再テストで満点を取ったときの表情が今も忘れられない  
(湖東第三小 園田T)
- ・活動を終えて、プリントを机にしまうとき、「ああ、楽しい」という声がたくさん聞けた。音読に苦手意識のあった子が図書室へ本を借りに行く頻度が増えた。  
(能登川西小 菌林T)
- ・チェックプリント50～60点台の中間層の子どもたちのアップ率が高く、取組も積極的だった。また、上位の子どもたちは高学年の漢字も読めるようになり、満足度が高い。漢字が嫌いという子が4人から1人に減り、全員が「漢字を覚えたい」という意識になった。  
漢字に苦手意識を持っている子が「先生、聞いて聞いて」と積極的に取り組む姿勢を見せてくれた。  
(能登川北小 西川T)
- ・子どもたちは自然に楽しく取り組んでいる  
(八日市南小 北川)

【考察】

- 「漢字音読名人」の練習は難しいと思っている子が半数近くいる。けれど、そういう子たちの多くが、「前より好きになった」と答えている点に注目したい。最初はむずかしく見えたけれど、取り組んでいくうちに、「読めるようになった!」「もっとおぼえたい」という達成感・自己肯定感や意欲が高まっていることが、子どもたちの自由記述のことばから読み取れる。

- 漢字に強い苦手意識のある子どもたちにとって、「漢字音読名人」は学ぶ意欲を引き出す手立てとはなり得ていない。別の手立てを講じる必要がある。

(3)「漢字音読名人」の練習をすることで力がついたと思えることがあるとしたらどんなことか。



	教科書を読むのが上手になった。	本を読むのが好きになった。	習っていない漢字を気にしなくなった。	書く練習も簡単になってきた。	特になし	その他	無回答
玉緒小2年	7	12	8	9	3		
八日市南小2年	39	52	34	36	7		
湖東第三小3年	21	35	20	23	8	1	1
能登川西小3年	24	20	30	28	4		
能登川北小4年	6	8	7	5	1		
能登川西小4年	8	21	18	11	3		
合計(213人中)	105	148	117	112	26	1	1

[担任の評価]

- ・音読に苦手意識のあった子が図書室へ本を借りにいく頻度が増えた。  
(能登川西小 藺林T)
- ・湖東第三小でも、漢字音読名人に取り組むようになってから、図書室へ行く頻度が増えて、楽しみながら分厚い本でも読む子が増えた。  
(湖東第三小 園田T)
- ・読もうとするので、言葉の数が増えたように感じる。また、日記に漢字を使おうとする子が増えた。  
(八日市南小 北川T)

【考察】

- ・『「読み」優先の指導が『書き』の負荷を軽減するのではないか、という研究仮説について、その有効性を裏付けるアンケート結果になっている。
- ・「漢字を読む力が育つことによって、文章を読む力・情報収集力が育つのではないか。」という研究仮説についても、その有効性を裏付けるアンケート結果になっている。

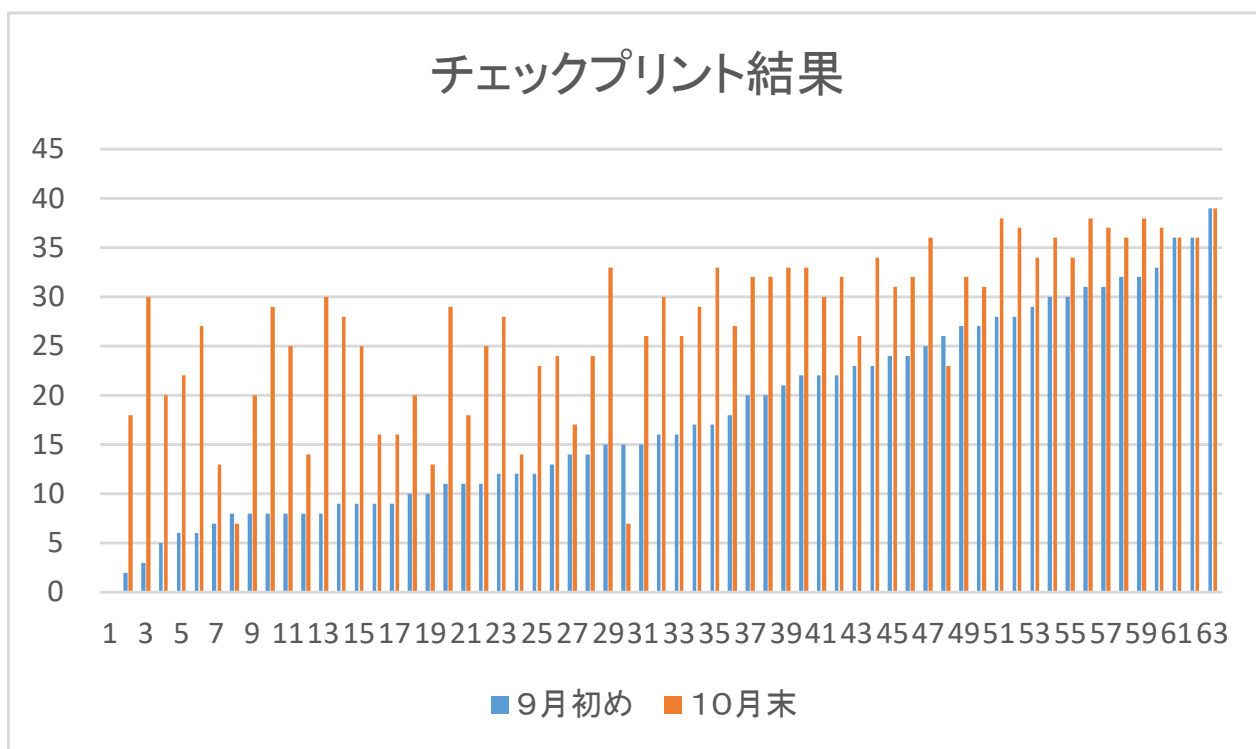
「(3)のアンケート欄のどこかに○をつけなければいけない」という意識が子どもたちの中にあつた可能性もあり、このデータをそのまま受け止めることには注意が必要である。しかし、少なくとも研究仮説を肯定する方向にあるものとして受け止めてよいのではないだろうか。

## 5. 子どもたちの漢字の読み習得状況の変容

漢字音読名人の例文から抽出した「漢字の読みチェックプリント」を作成し、9月初めと10月末、同じ問題で実施し漢字を読む力の変容を調べた。前後2回のデータが取れた学校の結果は次のとおりであった。

校名	チェックプリント結果	分析
能登川北小	(9月)学級平均 62.2点 ↓ (10月)学級平均 80.5点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級全員点数が上がった。最高38点増</li> <li>・1回目50～60点台の中間層のアップ率が高く、取組も積極的であった。</li> <li>・1回目10点台(2名)は2回目20点台にとどまり、取組も消極的だった。</li> </ul>
八日市南小・玉緒小2年(63名)	(9月)全体平均 18点/40点 ↓ (10月)全体平均 27点/40点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目より点数が下がった児童が3名いた以外は全員点数が上がった。</li> </ul>

八日市南小・玉緒小2年児童の1回目・2回目の点数の伸び具合をグラフ化すると次のようになった。



個々にばらつきはあるものの、低・中位の子どもたちが着実に読みの力を伸ばしていることがこのグラフから読み取れる。



## 6. 特別支援学級・通級指導教室での実践

### (1) 蒲生北小通級指導教室での実践 (少徳T)

漢字の苦手な5年児童。漢字テストの結果は常に3～4割にとどまっている。その児童に「読み」「意味」中心の指導をしている。

毎日給食の準備時間15分、通級に来てもらって、5年生の漢字ドリルにふりがなをつけてやって、読めたら消すという漢字音読名人と同じやり方でやる。それができるようになったら、意味を教える。それが終わって本人が書きたいという意欲があったら、書かせるという形でやっている。

読めて、意味が分かったら、書く意欲も持つようになって、飛躍的に漢字テストの成績が伸びた。3～4割だったのが8～10割書けるようになった。先日、50問テストが一発百点だったので私も驚いた。50問テストの答の漢字の方にふりがなを打ち、何度も読み、意味を二人で辞書で引いて調べ、その漢字のつくいろんな言葉を作って遊んだ。そういうことをすると漢字のイメージが湧くのか、覚えやすくなったみたいだ。「読むこと」と「意味」はとても大事だと実感している。

### (2) 八日市南小通級指導教室での実践 (福井T)

#### ①漢字が苦手なA児

1学期、つぶ読みレベルだったが、やっと単語レベルで読めるようになってきた段階の子。週1回の通級時に漢字音読名人を導入してみた。漢字が苦手な子なので、漢字一つだけを選んで、その漢字でいっぱい遊んで、書いて、一文だけを読むという形。少し漢字の読みに慣れてくるので、普通教科書でも前よりはよく読めるようになった。

#### ②図書室に籠もって読書に没頭するタイプのB児

「次の通級教室の時、誕生日やし、『漢字音読名人』したい。」と言ってくれた。どんどんできていくので「やれてるやん！」と評価が上がる。自尊感情が低い子なので、すごいペースで進んでいけて、「やれる！」という感覚がある。

ゆっくり進めて達成感を持つA児、どんどん進むことに快感を感じているB児、それぞれに有効であった。

漢字を読むことに加えて「その漢字で遊ぶ」ことが重要だと思う。単に読むだけの活動に終わった漢字は定着しなかった。

### (3) 八日市南小 別室指導 野瀬Tの実践

「別室」は学年も様々で、毎日来るという訳でもない。漢字にも強い苦手意識を持つ子もいる。「読むだけやからやってみひん？」と子どもたちに投げかけたところ、「読むだけやったらやってもいいわ」というところから取組が始まった。

音読名人の例文を見て、「ぼくらもやってみたい」と言うので、文作りをやり始めた。すると、「文作りが楽しい」と言って熱中するようになった。5、6年男子三人がそれぞれ文を作ってくる。しかも自分の生活に密着した文を作ってくる。自分が作ってきた文を二人に読ませるというゲーム感覚で、今も続けている。「芽が出た」を「目が出た」と間違っていると、「それ違うで」と指摘しあう姿も見られる。

今は、漢字を提示すれば、自分たちで文を作り、進めるようになった。「(文作り)をやろう！」と言ってきたり、今まで宿題の音読をしてこなかった子が音読するようになったり、「図書室行こうな。本読みたい」という姿も出てきた。「自分も読める」ということで漢字

に対するハードルが少し下がったように思う。

また、一年生でひらがなが読めないという子がいる。1学期で2個、夏休み母親の指導で12個、今やっと半分ぐらいという状況。担任が「漢字については興味を示している」という話を聞いたので、母親と相談して漢字指導を始めている。

## 7. オブザーバーからの助言

— [杉澤校長より] —

### ①「漢字音読名人」の教材としての価値

◎子どもの抵抗を取ったこと。

- ・書くことに比べて読むことは、はるかに易しい。
- ・「読み→書き」というこれまでと逆転した指導の手法については、本格的に検討すべきではないかと思う。「漢字音読名人で抵抗を取ることは有効である」ということの実証事例を集めたい。

◎「音声」から入ることの有効性

- ・音読自体が弾みのある楽しい活動である。算数の「本読み計算」でも、子どもたちがとても弾んでやっている。自分が、英会話を学びたいと思ったとき一番覚えやすかった方法は、「音声」→「日本語訳」→「音声」という形だった。音声から入ることの有効性があるのではないか。

### ②「中間層」が向上したということの検証

- ・「中間層の学力を高めよう」と常々職員に伝えている。その意味で漢字音読名人の取組で「中間層の伸びが著しい」ことであれば、非常に有効な取組であると言える。丁寧に検証したい。この学習で「関心」「意欲」が大いに触発されていることが子どもたちの姿からうかがえる。

### ③短く・簡単に

短時間で簡単にできる取組であるということを抜きにはできないだろう。

### ④新学習指導要領について

すでに現行の指導要領でも、「熟語の中に未習の漢字があってもフリガナ付きで示す」とされている。それがより顕著に出てくるということだろう。ここでの取組はそれとつながるものだと言える。

※ 新教育課程 国語科解説に次の文言が明記される。

「ふりがなつき漢字の提示を増やし、漢字を読む機会を多く持つようにすることにより、児童の語句の読み取りや理解を一層高めることが期待される。」

— [井上知子氏より] —

### ①漢字指導の改善を提唱する原点にあるもの

○表音・表意文字を使っているのは日本だけ

世界のほとんどの国は表音文字を使っており、表意文字と表音文字を使っている国は日本だけ。その文化を継承して行かざるを得ないし、そのメリットを活用すべきだと思う。

○小学校6年で大人の新聞を読めない日本の子どもたち

表音文字の国の子どもたちは、小学校6年生で大人の新聞が読める。綴りは発音記号から読める。だから、その言葉の意味を知っていれば理解できる。しかし、日本の6年生

は特別優秀な子でないと読めない。グローバル化する社会にあつて、この差は非常に心配。

それでも日本の学力レベルが落ちないのは、学校・親のたいへんな努力の賜だし、それだけ子どもたちは意欲的なのだ。的確な方法を取ればもっと伸びるはずだと思えてならない。

#### ○極端に自尊感情の低い日本の若者

世界的に見たとき、自己肯定感・自尊感情が極端に低いのが日本の青年層(中・高・大)である。なぜ低くなるかと言えば、学習に大変な負荷をかけ、その中で劣等感をものすごく育んでしまっているからだ。

#### ○「文字が読める」ということの重要性

学校教育の目的は、社会に出て仕事ができる人間に育てることだ。仕事をするというときに、書けなくても文字が読めれば仕事の内容は分かる。だから「読める」ということにもっとウエイトを置いて良いと思う。読めれば言葉を獲得できる。情報を獲得できる。だから、そこを助けてやれば、意欲が出てくるだろうし、劣等感もあまり感じないのではないか。

#### ②私の子育ての経験から

私の長男は小学校に入学したとき、全くひらがなが習得できなかった。ノートにきれいに書いてはいたが、「文字」という認識が無く、全く読めなかった。

そのとき、『ひらがな』単なる発音記号だから却って難しいのだ」と考えた。

そこで、「漢字をエピソード的にやれば覚えかもしれない。」と思い、漢字の指導を始めることにした。車が大好きな子だったので、「車を運転するには免許を取る必要がある。そのためには新聞に書いてあるような文字を覚えないと取れないよ。」と言うと「字の練習をする。」と言ったので、それから毎日 15 分ずつやった。1 日 1 文字、その漢字で遊び、意味を教え、文を作り、それを読む。確実に読めるようになったら、書くという形でやった。確実に読めるようになった漢字は、1～2回書く練習をすれば書けるようになった。そして、6年間ですべての教育漢字を習得した。弟の方も兄と同じようにやりたいと言うのでやった。弟は2年半ですべての教育漢字をマスターした。

#### ★漢字の習得は「抽象言語」の習得でもある。

長男は、その後、大学で学ぶ楽しさに目覚め、卒業時には論理の整った精緻な文章も書けるようになった。その経験から思うことは、「抽象言語」の獲得は重要だということ。

小学校三年生ぐらいで漢字が読めなかったら、抽象言語が取り入れられない。抽象言語が取り入れられないと抽象思考ができない。だから、高学年になるほど差が出てきてしまう。「国語ができないと数学ができない」というのは本当だろうと思う。そこから言っても、漢字の習得は学力全体に大きく影響する。

#### ③漢字指導の4つのポイント

##### ◎最初に主体を起こせるか

「漢字を学びたい」という主体を起こせるか。

##### ◎継続して主体を起こし続けられるか

##### ◎エピソード記憶を活用する

エピソード記憶は長く記憶が保持される。また、1回で成立することが多い。

漢字を教えるとき、このエピソード記憶を活用すれば非常に効率的になる。

提示する漢字は1回に1個にとどめた方がよい。特に低位の子にはいくつも提示す

ると混乱する。

一日1漢字を提示し、漢字の意味を教え、その漢字を使って文作りなどを5分間楽しむという活動を入れてから読む練習に入るとエピソード記憶がうまく働くだろう。

◎子どもの発達過程を踏まえる 「一対一」の関係が重要

生まれた時は母子一体の二者単一体。それが自他の区別がつき、一対一の関係が理解できるようになる。ここが不十分だと次の一対多の関係が築けない。

その次の段階が「多の中の一対一」の理解。集団の中において、先生の指示を自分に言われているものとして聞ける力。この感覚が育っていない子にいくら「話を聞きなさい」と注意しても入らない。

さらに「多の中の一」の理解。集団の中で自分を保つ力。ここが弱い子は机の下にもぐったり友だちにちょっかいをかけて関心を引こうとする。

少なくとも小学校入学時には「一対一」の理解が必要。そこが十分でないと分かったら、それをどこかで入れる。教師がすべての子と一対一をやるというのは無理。でも、子ども同士をグループ化・二人組にすることで「一対一」が生まれる。尾崎Tの手法はその形になっている。

## 8. 総括

### (1)成果

- ・「漢字音読名人」は、概ね子どもたちの漢字学習の意欲を喚起するものになっている。
- ・児童のアンケート結果、客観的な習得状況結果から、研究仮説は実証できる方向にある。

### (2)課題

- ①「漢字音読名人」を学習に組み込むだけの余裕がない。  
県からも漢字プリントが学校配布され、漢字の取組教材がとて多くて、漢字ドリルも教材として買っているの、漢字音読名人に時間をさききれない。
- ②教師がチェックする時間の余裕がない。
- ③子どもの格差が広がる。個々の子どもの学びのペースをどう保障するか。
- ④単調な取組になり、意欲の継続が難しい。
- ⑤本当に漢字が苦手な子は「漢字音読名人」の取組自体を拒否してしまう。
- ⑥例文自体が難しくて意味が分からないというところがある。
- ⑦教科書の配列と漢字音読名人が対応していない。

## 9. 今後の取組について

前半の取組で見えてきた課題に対する改善策として考えられることを以下に述べる。

### (1) 子どもたちが創る「音読名人」

野瀬Tの実践にあったように、掲出漢字についての例文を子どもたちが考えて創り、それを集めて「〇〇学級作漢字音読名人」を作ってはどうか。自分たちが考えた例文ということで、今の漢字音読名人よりずっと親近感が湧くのではないだろうか。また、自分たちの生活実感で作っているから「例文の意味が分からない」ということも無くなる。井上氏の言われる「エピソード記憶の活用」にもつながる。

### (2)手持ちのドリルを活用する

漢字教材がいくつもあり、漢字音読名人を学習活動に加える余裕が無いという状況だとすれば、北川Tの実践にあったように、今使っている漢字ドリルの活用の工夫を工夫してはどうか。

#### 【八日市南小北川Tの実践】

○漢字ドリルを読み先行で行う

- ①今まで、新出漢字は習った後にドリルを使ってやらせていたが、「読み」のページだけを先にさせてみた。そのとき「どんな意味？」と聞いてくれば意味も教えている。
- ②ある程度「読み」ができるようになってから、少しもどって新出漢字の書きの練習に入る。
- ③その後に教科書の本文の学習に入る。  
先に読みの練習をしているので、教科書の文章にすんなり入れるようになった。

漢字ドリルの「読み」の部分を優先して練習させる。完全に読めるようにしておいてから教科書教材の学習に入る。これだけでも子どもたちの漢字に対する苦手意識はかなり払拭されるのではないだろうか。

### (3)「一日一漢字」の提示

朝の会で、当番の子が「今日の漢字」として自分が選んだ漢字を1字黒板に書く。その漢字からイメージできる話を子どもたち同士で作る。その短文を漢字の横に書いておく。帰りの会にもう一度それを読んで帰る。これなら、漢字に強い苦手意識のある子も参加できるのではないかな。

### (4)漢字音読名人をもっと気軽な形で取り組む

「ここまでどの子も到達させよう」という意識を捨て、子どもたちの意欲に任せる。教師がチェックしなければならないと思わず、子ども同士のチェックで済ませる。面白いと思った子はどんどん先へ進ませる。例えて言えば「縄跳びカード」のイメージである。きちんとした漢字学習は今までもおり国語の時間にやり、漢字音読名人はその付録という意識でやれば「格差が広がる」ということも気にせずもっと楽しくやれるのではないかな。

### (5)漢字音読名人の改訂

教科書の配列と漢字音読名人の配列が対応していればもっと使いやすくなるという指摘はそのとおりである。3学期も継続して取り組みたいという学校のために、配列を教科書と対応させた改訂版を作成したい。

## 漢字音読名人の実践にご協力いただいている先生方へのお願い

日々多忙な中、漢字音読名人の実践にお取り組みいただきありがとうございます。

2学期末まであと1か月あまりしかありませんが、各校の実情に合わせて、可能な範囲で取り組みの継続をお願いします。

- ①時間の確保が難しく、継続的に漢字音読名人の取組をするのは困難という場合  
あるいは、前半の取組で子どもたちの意欲が喚起できなかったという場合

前項の(1)~(4)のどれかひとつを試行してみてください。

そして、その取組によって子どもたちの主体が起きるかどうかを見取ってください。

- ②継続して漢字音読名人に取り組む場合

漢字音読名人に取り組むようになって「本を読むのが好きになった」「書く練習も簡単になってきた」と答える子が多いことが中間アンケート結果からうかがえます。本当にそういう効果があるかを見ていねいに見てください。できれば、なぜそうなったのかという子どもたちの声も集めていただけるとありがたいです。

◎取組の総括交流会を2学期終了後に行います。具体的な日時は後ほどご連絡申し上げます。